

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	名古屋文理大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ナゴヤブンリダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	愛知県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップ
	学部・研究科等名	健康生活学部フードビジネス学科、情報メディア学部情報メディア学科
	担当教職員名・役職	伊藤美春・課長
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	45
	受入企業等数	36
	受入企業等名	稲沢市、浜木綿、ヤマダヤ、システムサーバー、ヤマナカ、ピコナレッジ、リそな銀行、ATグループ、自由ヶ丘クッキングスタジオ、電通名鉄コミュニケーション、ナゴヤキャッスル、昭和、紀伊國屋書店、CBC自動車学校、エスワイシステム、ホテル名古屋ガーデンパレス、サガミチェーン、フューレックス、FOOD&DRINK BANK、エイジック、タニザワフーズ、名古屋文理大学文化フォーラム、若鯨屋、HINODE&SONSグループ、佐藤農園、富士凸版印刷、三恵社、サンテック、スターシステム、ユーエイエム
	インターンシップの分類	6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 9. 中小企業でのインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	全3回の事前学習で、インターンシップの趣旨や目的の理解、インターンシップ目標設定と企業研究、ビジネスマナーや守秘義務の研修などを実施している。研修中に教員が研修先を訪問し、学生と面談する。研修後に学生は就業体験と自らの学びがどのように繋がったかを報告会で発表する。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		1年次～4年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		夏期及び春期休業中の1週間以上のインターンシップを専門教育科目として実施している。本科目では自主性・創造性を持った人材を育成するとともに、学生の就業観や勤労観の育成や専門分野への理解を促す。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全3回の事前学習で、インターンシップの趣旨や目的の理解、インターンシップ目標設定と企業研究、ビジネスマナーや守秘義務の研修などを実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ報告会および報告書の提出。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	大学等の教職員がインターンシップ先で学生に目標達成に向けた指導を行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	教員がマンツーマンで学生の目標達成や参加後のレポート作成指導を行う。これを通して学生の意識や行動の変容について確認を行い、自己理解を促し、今後の学修意欲の向上へ繋げる。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間以上
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	株式会社ヤマナカ等において、5日間のインターンシップを行っている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前にインターンシップの意義や目的を受入企業に理解いただいた上でプログラムの設計をお願いしている。また、インターンシップ中も受入企業様と本学教職員との面談の場を設け、学生のニーズに応えられるようにしている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.nagoya-bunri.ac.jp/
問い合わせ先	大学等名	名古屋文理大学
	担当部署名	キャリア支援センター
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	伊藤美春
	電話番号	0587-23-2400
	メールアドレス	syusyoku@nagoya-bunri.ac.jp